

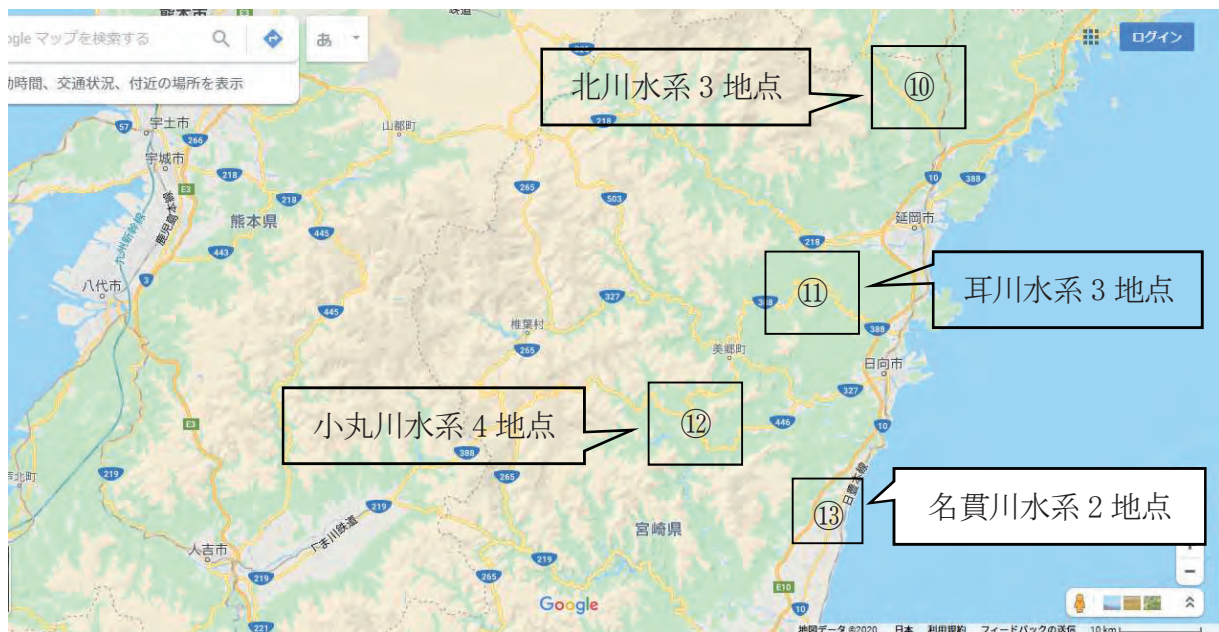


図3 宮崎県における放流場所



図5 鹿児島県における放流場所

(2) 放流個体について

「養殖期間と雌雄の関係」を図6から12に示した。長期間養殖した個体ほど雌の出現率が高い傾向にあった(図6・7・8・9)。

「体重と雌雄の関係」を図13から19に示した。大型魚ほど雌の比率が高い傾向にあった(図13・14・15・16・17)が、小型個体でも雌の比率が高い群があった(図14・15)。

50g以下の個体では雌の比率が30%を占めていたが、その後体重が増加するとともに雄の比率が高くなり、201~250gでは95%を雄が占めた。その後は体重が増加するとともに雌の比率が高くなる傾向にあり、601g以上では雌の比率は88%となった。なお、50g以下の群では、未発達等の個体を除けば、45%が雌であった。

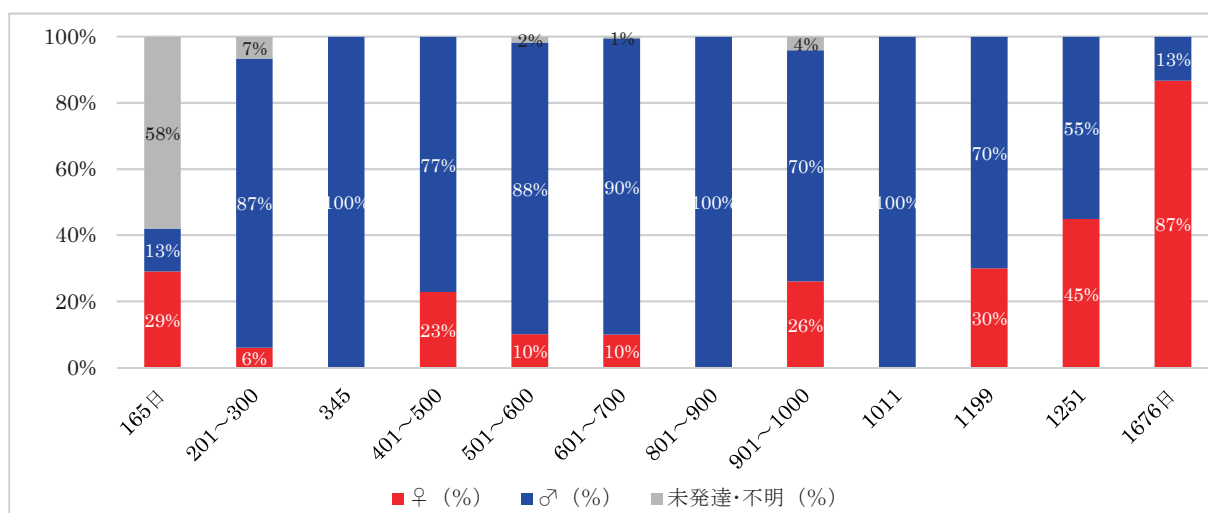


図6 平成26年度～31年度 養殖期間と雌雄の関係

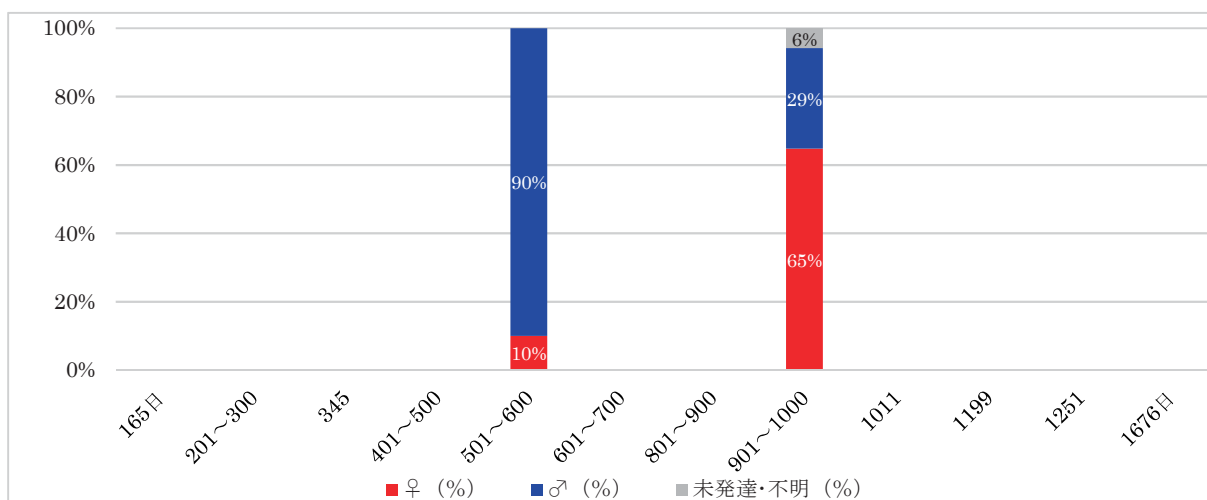


図7 平成26年度 養殖期間と雌雄の関係

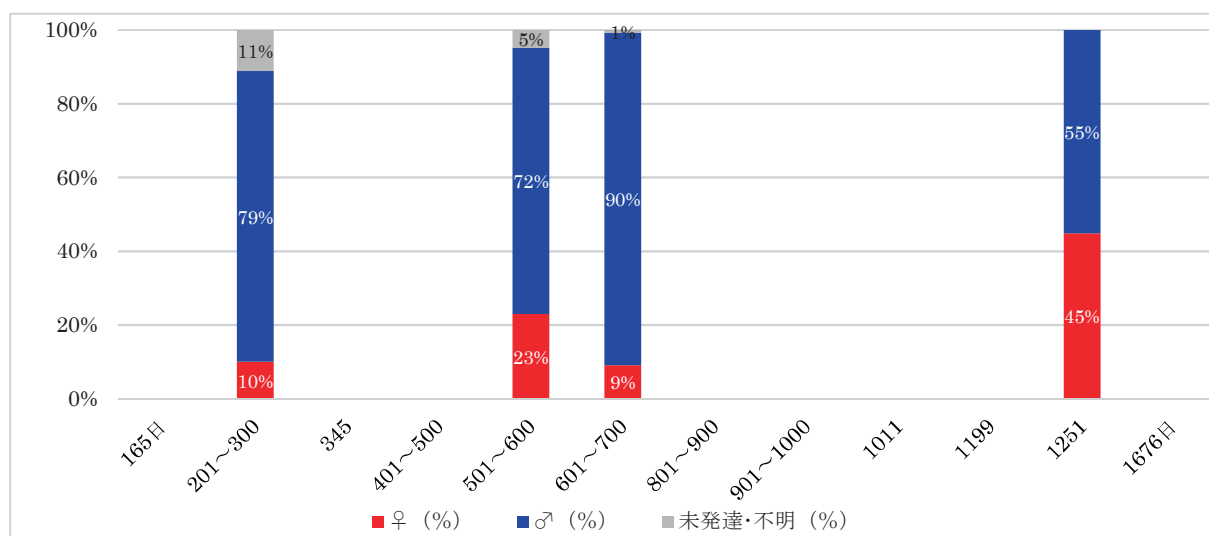


図8 平成27年度 養殖期間と雌雄の関係

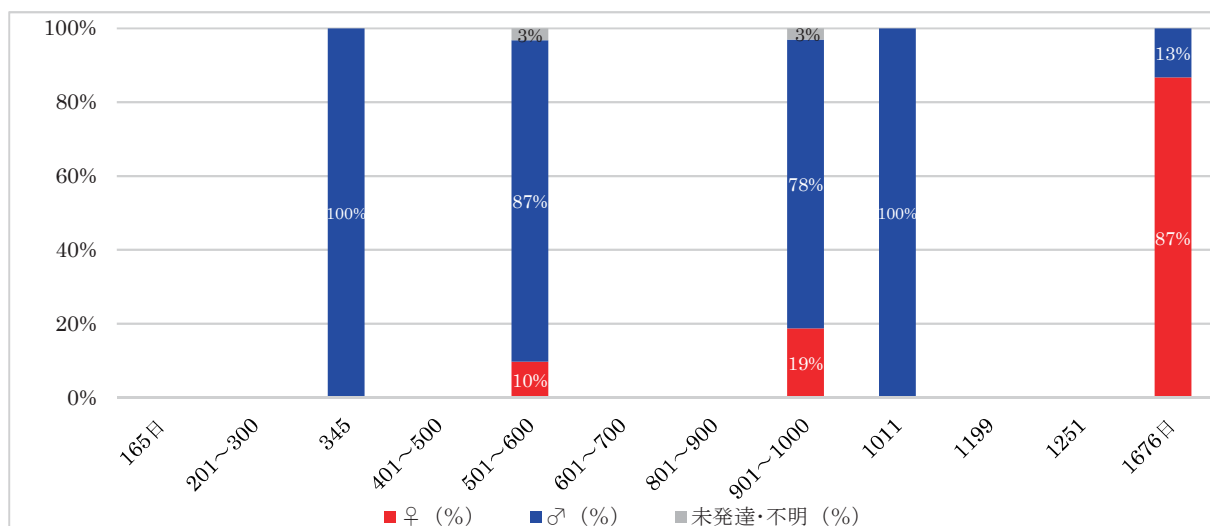


図9 平成28年度 養殖期間と雌雄の関係

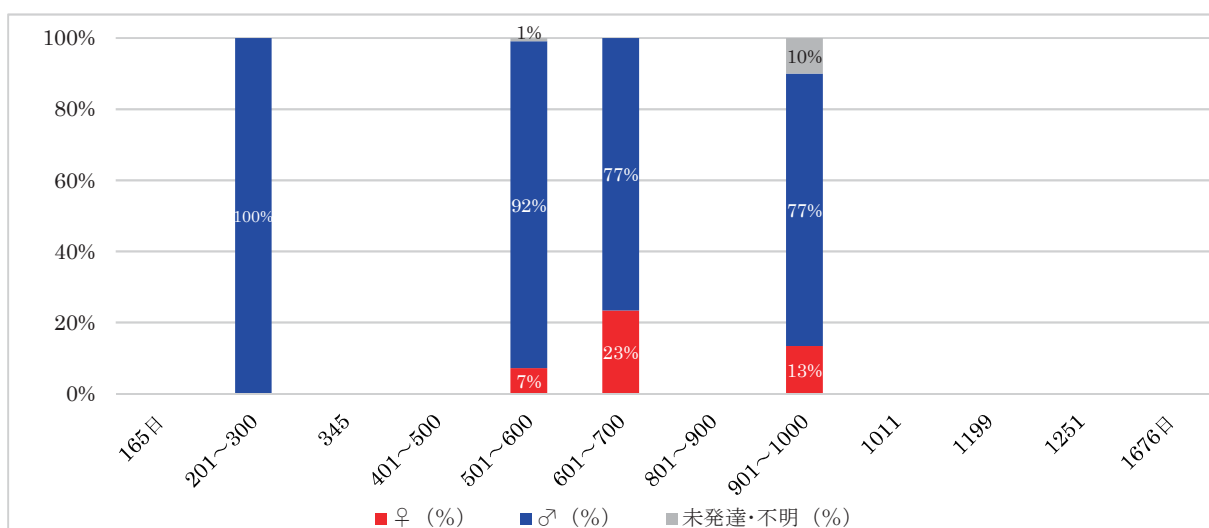


図10 平成29年度 養殖期間と雌雄の関係

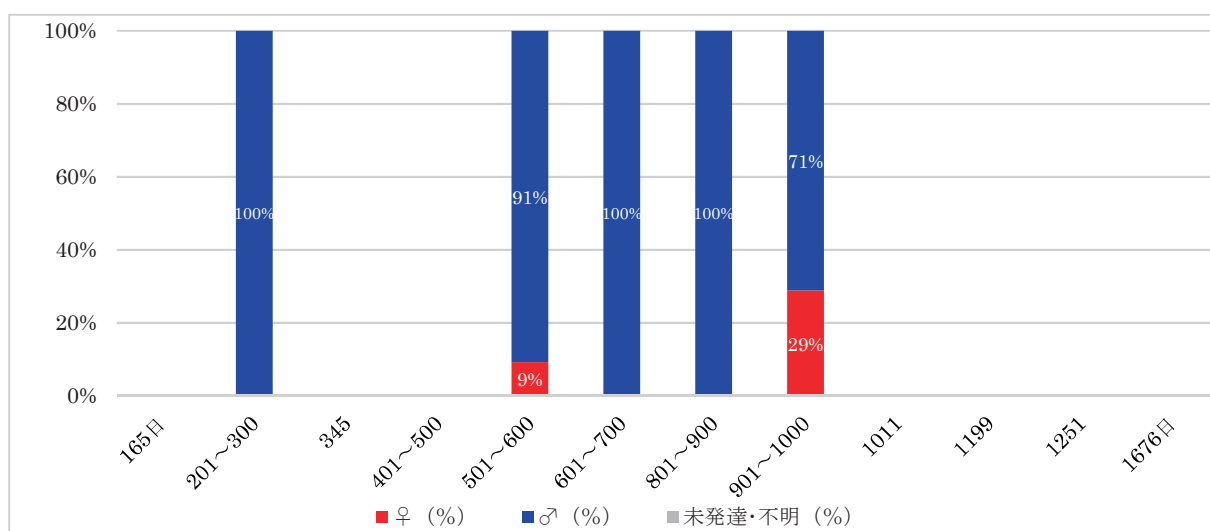


図11 平成30年度 養殖期間と雌雄の関係

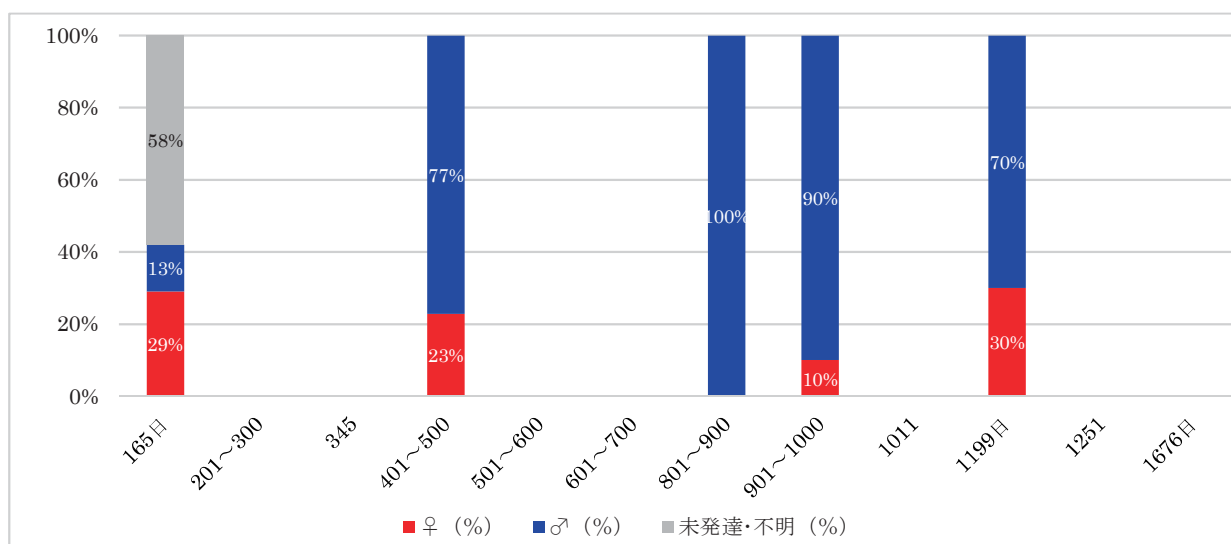


図 12 平成 31 年度 養殖期間と雌雄の関係

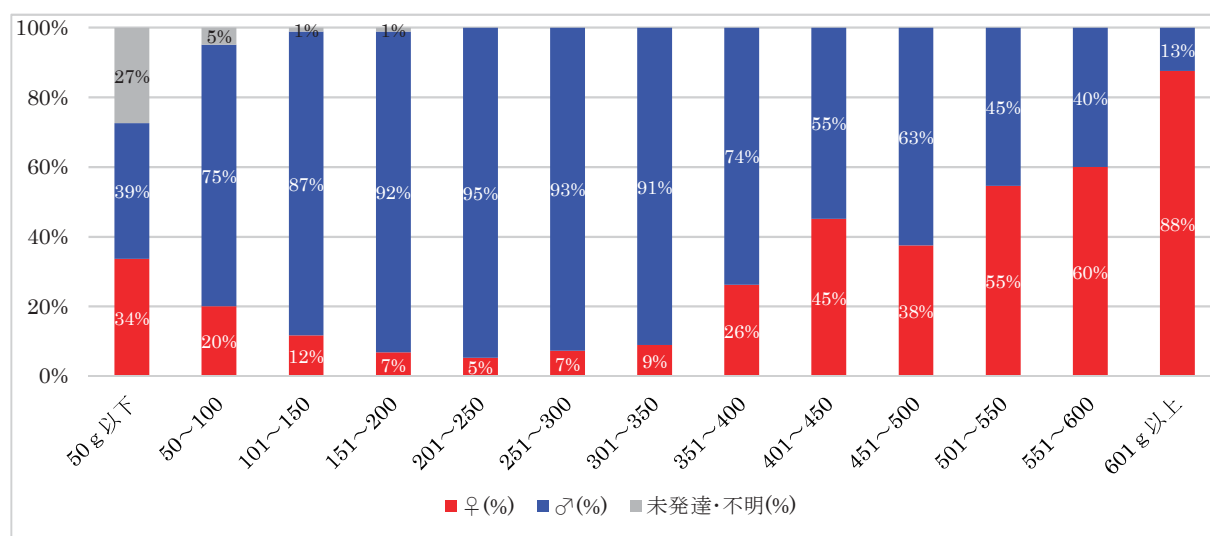


図 13 平成 26 年度～31 年度 体重と雌雄の関係

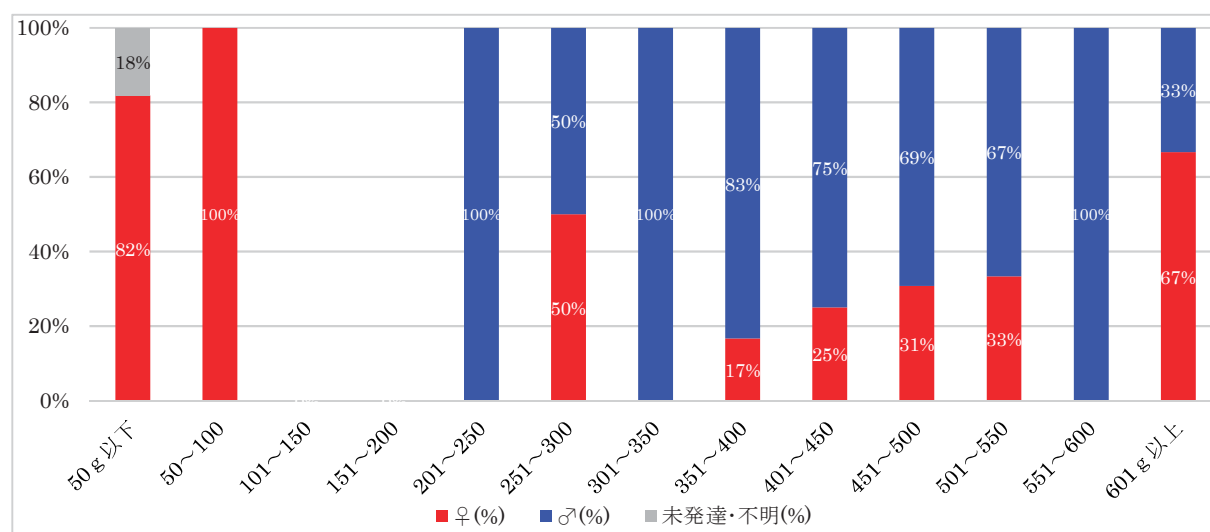


図 14 平成 26 年度 体重と雌雄の関係